

家庭教育力の強化を図る

家庭・地域・学校の連携を大切にしたPTA活動

～「柏っ子」をみんなで育てよう～

扶桑町立柏森小学校PTA

1 はじめに

本校は、扶桑町の中心部にあり、かつては、養蚕業が盛んに行われ、商店街も賑わっていた。戦後は工業と農業が盛んな地域となり、近年は名古屋のベッドタウンとして発展してきている。現在は、全校児童751名、25クラス（内2クラスは特別支援学級）である。



【柏森小学校の校舎】

PTA委員会は、「環境整備委員会」「保健厚生委員会」「校外指導委員会」「総務委員会」の4つの委員会で構成され、学校と家庭、地域が連携し、柏っ子の健全な育成を目指して活動を進めている。また、学校運営協働協議会、校下交通安全の会、スクールガードの会、各種ボランティア等、さまざまな立場でも学校・児童を支援していただいている。

2 研究への取組

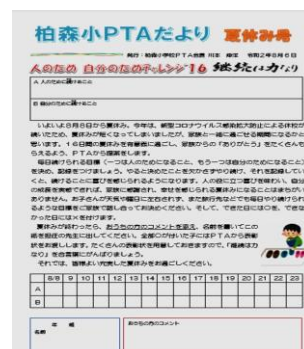
子どもへの教育は、学校と家庭がそれぞれの思いや願いをもって行うが、その在り方としては、互いにその教育力を補完し合ったり支援し合ったり刺激し合ったりするような関係が望ましいと考える。PTAという組織は、そうした関係作りをする上で両者をつなぐ有効な組織である。定期的な会合をもって話し合いをしたり、PTAだよりや学校だより等を通じて互いの教育活動についての情報交換をしたりすることができるからである。これまでもこの関係を大切にしながら学校教育活動やPTA活動を推進してきたが、令和2年度に「家庭教育力の強化を図る」ことを主題として、研究を進める機会を得た。そこで、これまで実施してきた活動を整理し振り返ることにより、今後のPTA活動の一層の充実を図りたいと考える。

3 実践活動の概要

(1) 「チャレンジ〇〇」※〇〇には日数が入ります。

令和元年度より「校外指導委員会」が中心となって始めた活動である。長期休業中（夏休みと冬休み）に、児童が「自分のためにがんばること」と「誰かのためにがんばること」の目標を決め、「校外指導委員会」が配付した表に記録しながら継続的に取り組んでいる。

子どもたちが考えた取組としては、早寝早起き、整理整頓、手洗い・うがい、学習の復習、



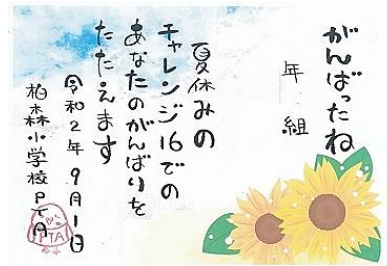
【目標を書いた用紙】

皿洗い、靴並べ等がある。「自分のためにがんばること」を実践することで、自分のできることを増やしたり、今の力を伸ばしたりしている。また、「誰かのためにがんばること」では、家族のためにできる手伝いに取り組むことで、勤労奉仕の気持ちを高めたり家族の一員である思いを深めたりしている。

この実践は、保護者が子どものがんばりを褒めたり励ましたりすることで、子どものやる気や家族の一員としての自覚、勤労奉仕の気持ちを高めることにつながっていると考えられる。おうちの方のコメント欄には「目標があると自分から取り組みやすい」「毎日続けることの大切さを学べたと思う」「これから、やったことがないことも目標にできるように声かけしていきたい」など記載されていた。また、アンケートでは、この取組を通して子どもの成長を感じた保護者が74%、家族の一員としての自覚が高くなったと感じた保護者が68%となった。子どもの取組を見守り、頑張りを認めている保護者が多いことが分かる。また、PTAの手作り賞状を渡し、特に頑張った児童を教室で披露する場を設定し、児童全体へチャレンジすることへの価値付けをし、日頃からの意識の向上を図っている。

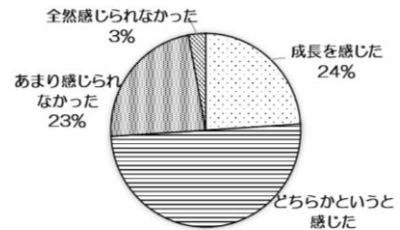
(2) スマホ・ケータイ安全教室

現在、子どもたちを取り巻く携帯・スマートフォン（以下スマホ）の広がり著しく、子どもたちにとっても、携帯・スマホは将来的に必要不可欠になってくるであろう。PTAで実施した携帯・スマホに関するアンケートにおいては、自分の携帯やスマホは所持していないが、使用している割合は、全校児童の6割近くになってきている。そのため、携帯・スマホの危険性や安全な使い方などを保護者から子どもたちに伝えてもらうために、保護者を対象としたスマホ・ケータイ安全教室を実施している。昨年度は体育館を会場として、携帯会社に講師を依頼し、講演会を行った。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の



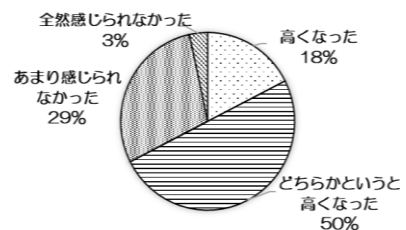
【児童に渡した表彰状】

チャレンジ〇〇の取組を通して、お子様の成長を感じることができましたか。



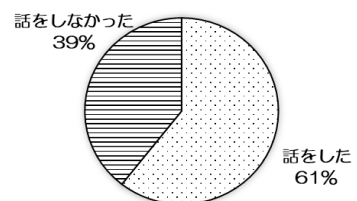
【アンケート結果①】

チャレンジ〇〇の取組を通して、お子様は家族の一員としての自覚は高くなりましたか。



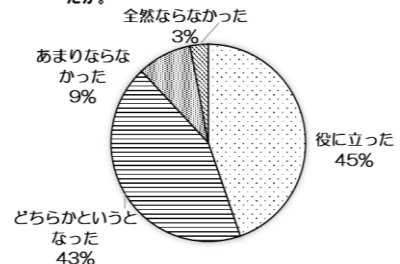
【アンケート結果②】

スマホ・ケータイ安全教室のパンフレットを見て、お子様とスマホ・携帯の使用について話をしましたか。



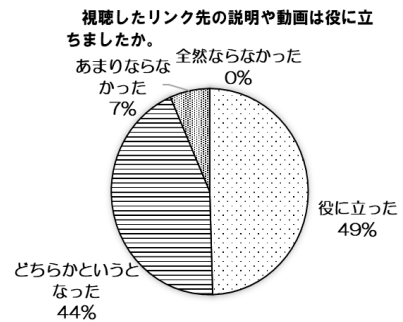
【アンケート結果③】

配付されたパンフレットは役に立ちましたか。



【アンケート結果④】

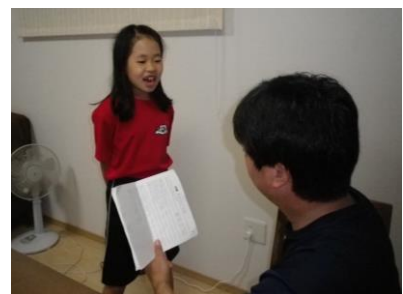
ため、講演会は実施できなかつたが、パンフレットを配付したり動画の視聴を案内したりすることで、保護者と子どもと一緒に携帯・スマホの使い方について学習する機会を設けることができた。スマホ・ケータイ安全教室実施後に行ったアンケートは、【アンケート結果③～⑤】のようになった。記述の欄には「親子で携帯の安全な使い方を学ぶことができてよかった。家族でルールを考えたい」「子どもが危ないことに巻き込まれないように今教えられてよかった」といった感想があった。家庭内で携帯・スマホについて保護者の意識を高められただけではなく、子どもと一緒に使い方について考えるきっかけとなったり、今後子どもにスマホなどを持たせる際に、ルールづくり、SNSの使い方とその危険性などを伝えていく必要性を感じられたりした家庭が多くあった。携帯・スマホの安全な使い方については、丹羽郡PTAとしても提言を配付し啓発に努めている。



【アンケート結果⑤】

(3) 「マイ詩」の語り

本校は、伝える力や表現する力を高めることを大切にして教育活動を行っている。その特徴的な活動の1つとして、「マイ詩」の取組がある。「マイ詩」とは、自分の好きな詩を一つ選び、詩をどう表現して読むか考え、抑揚を付けたり、低学年については振りを付けたりして、その詩を「語る」取組である。学校内だけではなく、家庭でもこの取組を行っている。夏休みにも「マイ詩」の取組を行い、聞いてもらった人のコメントをマイ詩手帳に記載できるようにしている。家庭でのコメントから、子どもたちは「褒められてうれしい。もっと練習したい」「アドバイスを取り入れて、もっと詩のよさを伝えたい」といった思いをもち、さらに練習を重ね、また聞いてもらいたいという気持ちを高めている。保護者も子どもの「語り」がよくなるように的確なアドバイスをしようとする気持ちが高まっているように感じる。



【マイ詩の家庭学習の様子】



【練習に使用したマイ詩手帳】

この取組を通して、家庭でのコミュニケーションが増えたり、伝え方や表現に対しての意識が高くなったりすることにつながることができたと考えられる。

(4) その他

① 交通当番活動

PTA委員が中心となり、一年間を通して交通当番活動を実施して

いる。スクールガードや、子供会などの有志で交通当番活動や通学班に帯同してくださる保護者も多くおり、いろいろな立場の方から子どもたちの交通安全を支えていただいている。

② 自転車点検活動

P T Aの「校外指導委員会」によって企画し、年度初めに点検用紙を配付し、各家庭で行っている。整備不良による交通事故にならないようにするための取組である。また、保護者と子どもが一緒に取り組み、交通安全について話し合うきっかけにもなっている。

③ 通学路点検

P T Aの「校外指導委員会」によって子どもたちが安全に登下校できるように年に2回、通学路の状況の点検を行っている。その情報をもとに、特に安全に気を付ける箇所を児童に伝えたり、登下校の指導に生かしたりしている。

④ あいさつ運動

児童が登校する各門に生活委員の児童とともにP T A委員が参加し、あいさつを交わしている。地域の“校下交通安全の会”の皆さんも年に2回参加して下さっている。あいさつをきっかけとして、児童、P T A委員、地域、教員のコミュニケーションの場ともなり連携を深めている。



【あいさつ運動の様子】

⑤ ボランティア

継続的に活動している読み聞かせサークル「コロボックル」（保護者、保護者O B）、地域協働活動推進員の方のコーディネートにより、募集した各種ボランティア、多くの教育活動への外部講師等々、さまざまな立場の方々も本校を支えている。

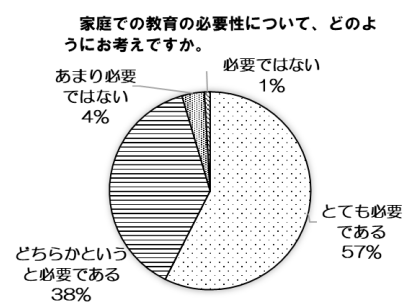
4 おわりに

P T A活動を、学校と家庭との連携を中心に、地域や外部の方とのつながりも大切にしながら進めていくことで、「柏っ子」は、多方面の力を伸ばすことができている。また、保護者の家庭教育に対する意識もより高まってきたと言える。

「家庭教育についての工夫」に対するアンケート

トには、「片付けや掃除など一緒にやることで家族の喜びを共有している」「新聞にスマホの事件があれば一緒に読むようにしている」など、今までのP T A活動を発展・継続している記述が多く見られる。また、「これからの学校と家庭との連携」については、これからも、学校と家庭との共通理解や同じ目標をもつことが大切という記述が多かった。

今後も、健全な「柏っ子」の育成のために、家庭・地域・学校の連携を大切にしながら工夫してP T A活動を進めていきたい。



【アンケート結果⑥】